

私の仕事 この一年

名古屋市鶴舞中央図書館

西村清宏

2020年4月に司書として名古屋市鶴舞中央図書館に配属され、早くも1年が経とうとしています。この1年で携わった業務や感じたことについてご紹介させていただきます。

鶴舞中央図書館では1階が一般書、2階が専門書や郷土資料を配架するコーナーとなっています。配属された奉仕第二係は2階のフロアや書庫を中心に貸出などカウンター業務や調査相談などに応じています。

特徴的な業務としてはレファレンスがあります。奉仕第二係ではカウンターや電話のほか、図書館のホームページからもメールでのレファレンスを受け付けています。郷土資料や専門書が多いため「尾張藩士だった先祖について調べたい」など郷土に関する内容や専門的な内容のレファレンスもかなり多く寄せられています。

レファレンスサービスについて大学でも学び、演習なども経験しましたが、一番強く感じた違いは「実際に相手がいる」ということです。お客さんによって、同じような質問でも実際に知りたい内容は大きく違うことも多いうえ、質問内容とお客さんが実際に必要としている情報とにズレがあることや、調査にあまり時間をかけることができないこともあります。このため質問を受けた際にはお客さんが何を知りたいのか、しっかり確認するとともに、難しい質問に対しては早めに周囲の先輩方と協力して複数人で対応することを大切にしています。それでも、お客さんが求めておられた情報を見つけ出せず申し訳なく、悔しい思いをすることもあります。このように大変なこと、難しいことも多いですが、一方でうまく資料を提供できた時にはお客さんに喜んでもらえることができ、非常にやりがいがあります。

また時々担当する業務として選書作業があります。名古屋市図書館では現物での選書を行っており、数か月に一度担当する時期になると書店から持ち込まれた800冊ほどの本を1冊ずつ確認し図書館で購入するか他の担当者と一緒に検討していきます。会場となる鶴舞中央図書館では通常業務の間に1週間で、分館の方は1日で持ち込まれた本を確認しています。責任重大で負担もありますが、実際に本を手にとってみることで購入する本をより知ることもでき、楽しい業務でもあります。

最後に新型コロナウイルスを巡る対応についてご紹介します。配属された当初、4～5月は図書館も臨時休館となり、入口で予約本や司書が選んだ児童書のセットを貸し出すサービスを行っていました。しかし緊急事態宣言発令時には完全休館となり、職員を半分に分け1日交替で在宅勤務を行いました。在宅勤務中は研修の振り返りなどを行っていましたが、図書館の資料にアクセスできない在宅勤務にはかなり限界を感じました。6月以降は座席数を減らして開館し、返却された本の消毒作業やイベントの参加人数制限など感染防止措置を続けつつサービスを提供しています。貸出冊数は例年並みに回復し、多くの方が来館していますが、休日に中心に閲覧するスペースが足りないことが多くなっています。

新型コロナウイルスにより通常とは大きく異なる対応を迫られた1年でしたが、改めて図書館の役割について深く考えさせられた1年でもありました。まだまだ未熟な部分が多いですが、これからも日々経験を積んで成長していきたいです。